

■インポート／エクスポート

➤ From SS7 インポート（変換設定の追加項目）

- ・ 「はかま筋を変換する」設定を追加しました。

チェックありで変換すると変換時に設定した割付ピッチで計算したはかま本数で変換します。

☒ はかま筋を変換する	☐ はかま筋をベース筋と同本数で変換する		
径 D13	基礎かぶり厚（周囲） 70	X方向ピッチ 250	Y方向ピッチ 250

チェックを入れると、はかま筋径、基礎かぶり厚（周囲）、X/Y 方向ピッチを指定できるようになります。指定した径にて、下記で計算した、はかま筋本数で変換します。

(基礎サイズ X または Y-(基礎かぶり厚)*2) / (@ピッチ)

小数点ありの場合 → 小数点以下 1 位を切り上げた整数値に+1

整数値の場合 → 結果の整数値に+1

はかま筋をベース筋と同本数で変換するにチェックを入れた場合、
はかま筋は、指定した径で、ベース筋と同本数で変換します。

(ご注意)

SIRBIM では、はかま筋を本数で扱うため、リスト図等の表現では本数表示となります。

- ・ 「杭基礎タイプは、「SIRBIM」の杭基礎タイプに変換する」設定を追加しました。
SS7 インポートで下記設定のチェックを外して変換すると SS7 杭基礎タイプで変換します。

☐ 杭基礎タイプは、「SIRBIM」の杭基礎タイプに変換する（他のソフトに変換する場合に使用）
--

SIRBIM で扱える SS7 の杭基礎タイプは、
SIRBIM マニュアル[操作編] 5.4.2.3『Super Build/SS7』をご参照ください。

(ご注意)

SIRBIM から他のソフトへ連携する際には、SIRBIM 独自の杭基礎タイプで連携します。
その場合、SS7 インポートの上記設定は、チェックを付けて変換をお願いします。

➤ From SS7 インポート（変換仕様の変更内容）

- つなぎ筋を径 D13、基礎高さに対して@300 となる段数で変換となります。
※以下いずれかの条件となる場合は、つなぎ筋を変換しません。
→ 基礎高さ≤400 mmの場合／はかま筋を変換する設定にチェックが入っていない場合

- SS7 外部袖壁の変換が下記のように変更となりました。

SS7	SIRBIM (Ver.2)	SIRBIM (Ver.3)
外部袖壁	雑壁	一般壁の袖壁

SIRBIM へ雑壁で変換していたのを一般壁の袖壁で変換するよう変更しました。

- SS7 のパラペットの変換が下記のように変更となりました。

SS7	SIRBIM (Ver.2)	SIRBIM (Ver.3)
パラペット	雑壁（腰壁）	一般壁の腰壁

SIRBIM へ雑壁（腰壁）で変換していたのを一般壁の腰壁で変換するよう変更しました。

- SS7 の片持床周辺の小梁の変換が下記のように変更となりました。

SS7	SIRBIM (Ver.2)	SIRBIM (Ver.3)
片持床周辺の小梁	片持小梁	一般小梁

SIRBIM へ片持小梁で変換していたのを一般小梁で変換するよう変更しました。

- 鉄骨柱脚のオフセット Z（配置プロパティ）の変換を下記の内容で変更となりました。
既製品柱脚：BPL 下端位置となる値を変換するよう変更となりました。
露出柱脚：基礎柱上端位置となる値を変換するよう変更となりました。
埋込み柱脚：SS7 埋込み柱脚「深さ」を考慮した位置で変換するよう変更となりました。
根巻柱脚：基礎梁上端位置となる値を変換するよう変更となりました。

- 木材の柱、梁は、鋼材名 = “WOOD”、B-H x B x 1.0 x 1.0 で変換となります。

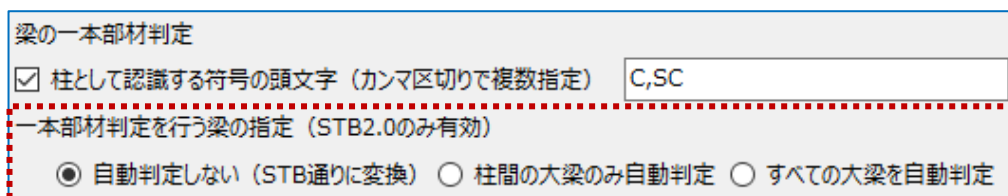
- SS7 [Ver.1.1.1.20] 水平ブレース断面を変換します。
※SIRBIM 未対応断面は、断面を置換し、その旨ログを出力して変換します。

- SS7 [Ver.1.1.1.20] 打増しを変換します。
※符号ごとの打増しは、変換対象外となります。

- SS7 [Ver.1.1.1.20] 杭の断面数の拡張（断面 1～5 までの入力）に対応しました。

➤ From ST-Bridge インポート（変換設定の追加項目）

- ・ 「梁の一本部材判定」設定に「**一本部材判定を行う梁の指定**」設定を追加しました。



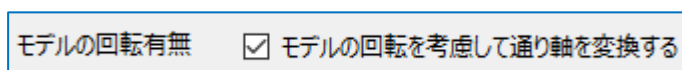
設定ごとの変換仕様は下記です。

自動判定しない : STB の節点通りに変換します。

柱間の大梁のみ自動判定 : 柱間の大梁のみ柱抜け判定して変換します。

すべての大梁を自動判定 : すべての大梁を柱抜け判定して変換します。

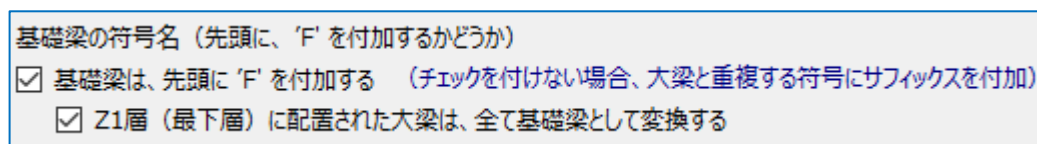
- ・ 「**モデルの回転有無**」設定を追加しました。



通り軸が折れ曲がるようなモデルの場合、チェックを入れると、

通り軸全体が回転していることを考慮して、通り軸が直線になるように変換します。

- ・ 「**基礎梁の符号名（先頭に'F'を付加するかどうか）**」設定を追加しました。



チェックを入れると、基礎梁と認識した場合で先頭に'F'が無い場合'F'を付加して変換します。

従来、最下層の大梁は、先頭に'F'を付加して変換しておりましたが、接地の有無等により

最下層の大梁が「G○○」とした場合に計算のままの符号で変換するための対応です。

➤ ST-Bridge インポート（変換仕様の変更内容）

- ・ ST-Bridge の基礎横筋を SIRBIM 基礎定義つなぎ筋に変換するよう変更となりました。
（未入力の場合は、径 D13 で基礎高さに対して@300 となる段数で変換となります。）

➤ ST-Bridge エクスポート

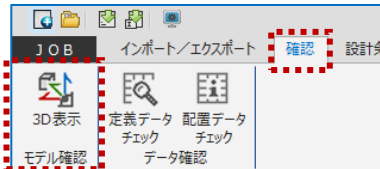
- ・ ST-Bridge 出力バージョン 1.4 が廃止となりました。
出力可能な ST-Bridge バージョンは、2.0.1 となります。

■ 確認

➤ 3D 表示

(操作メニュー)

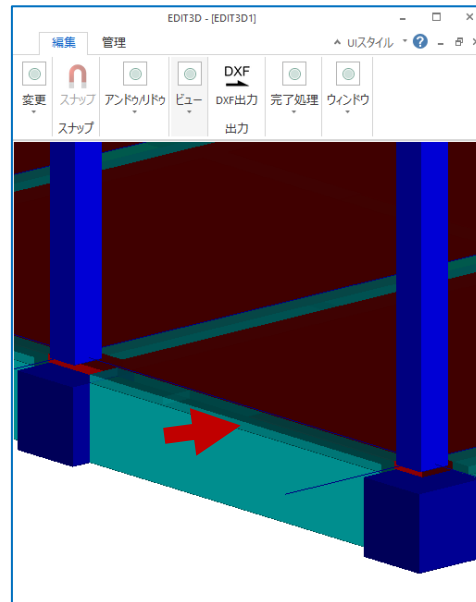
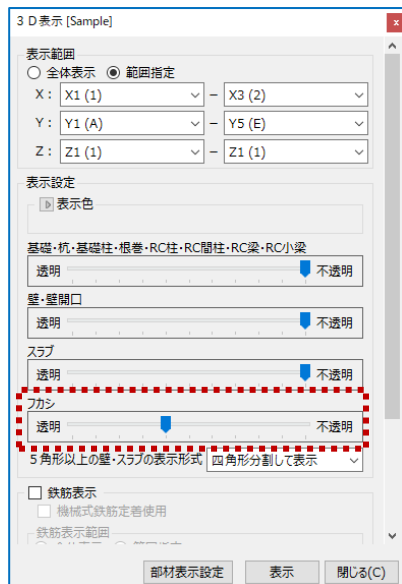
SIRBIM[確認]-[3D 表示]



- ・ 「ファシ」表示機能を追加しました。

3D 表示設定からファシの透明度を指定して元の躯体と区別して表示することができます。

例) 基礎梁の上ファシ 3D 表示



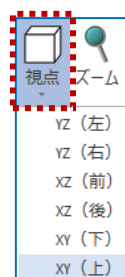
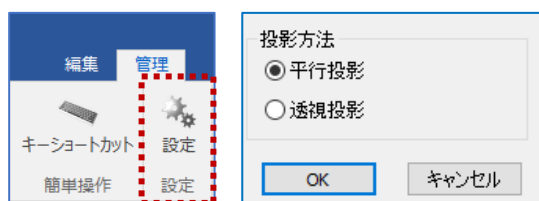
- ・ 「DXF 出力」機能を追加しました。

3D 表示画面の下記メニューから DXF ファイルを出力することができます。



- ・ 投影方法「平行投影」の選択および「視点」設定を追加しました。

3D 表示画面の下記メニューから平行投影か透視投影を選択して表示できます。



■建物形状

➤ 建物概要

(操作メニュー)

SIRBIM[建物形状]-[建物概要]



原点位置が指定できるようになりました。BIM 連携等の際に指定した原点位置で変換します。



➤ 通り軸省略

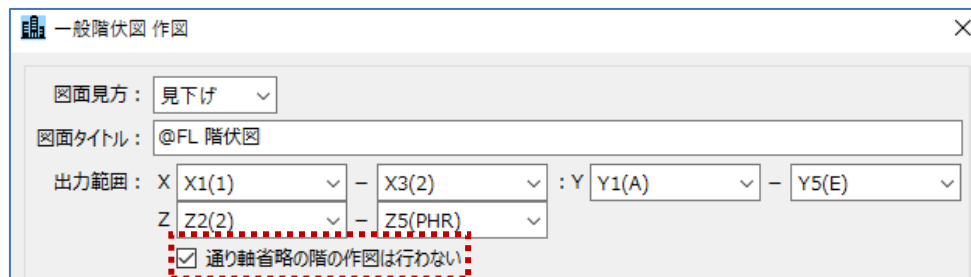
(操作メニュー)

SIRBIM[建物形状]-[通り軸省略]



設定内で省略にチェックを付けた X/Y/Z 軸を構造図で作図しないことができます。

構造図(伏図・軸組図・詳細図)作図前の下記設定にて、「通り軸省略の階または通りの作図は行わない」にチェックを入れた場合、通り軸省略指定した通り軸が作図されなくなります。



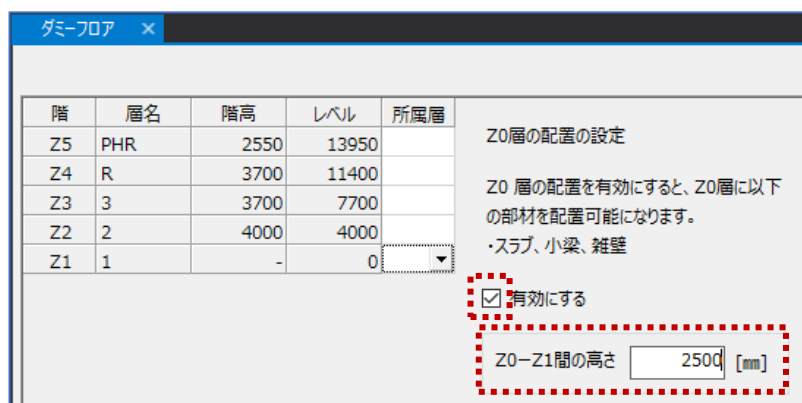
➤ ダミーフロア

(操作メニュー)

SIRBIM[建物形状]-[ダミーフロア]

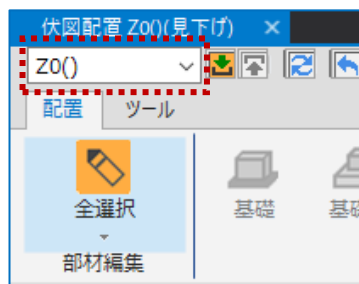


Z0 層配置の設定を追加しました。配置入力時でのみ使用できる仮想の Z0 層を定義します。



Z0 層を有効とすることで、Z0 層配置が行えるようになります。

Z0 層にはスラブ、小梁、雑壁のみ配置ができます。

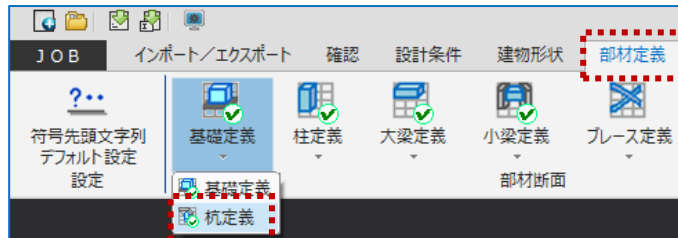


■部材定義

➤ 杭定義

(操作メニュー)

SIRBIM[部材定義]-[基礎定義]-[杭定義]



杭のコンクリート部分と鉄筋部分を杭頭部、杭軸部、杭脚部で統一しました。

※杭定義の仕様変更に伴い、杭断面リストも変更となります。

杭定義の入力仕様を下記のように変更しました。

杭定義

1														
2														
No	基礎 符号	杭符号	杭タイプ	杭										
				杭頭部				杭軸部		杭脚部			杭長	
				TB杭		区間長	杭径	区間長	杭径	区間長	設計径	施工径		
				材質 入力	鋼管厚 [mm]									鋼管長 [m]
1	F1	P1	場所打杭(拡底)	STK490	9	6	6	1200	6	1200	8	2500	2600	20

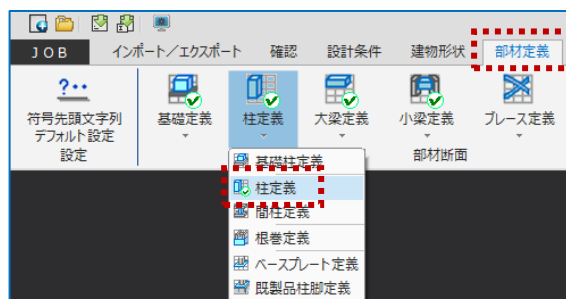
主筋											
杭頭部				杭軸部				杭脚部			
1段筋		2段筋		1段筋		2段筋		1段筋		2段筋	
本数	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	径	本数	径
[本]	[Dxx]	[本]	[Dxx]	[本]	[Dxx]	[本]	[Dxx]	[本]	[Dxx]	[本]	[Dxx]
10	D32			10	D32			10	D32		

帯筋					
杭頭部		杭軸部		杭脚部	
径	ピッチ	径	ピッチ	径	ピッチ
[Dxx]	[mm]	[Dxx]	[mm]	[Dxx]	[mm]
D13	150	D13	150	D13	300

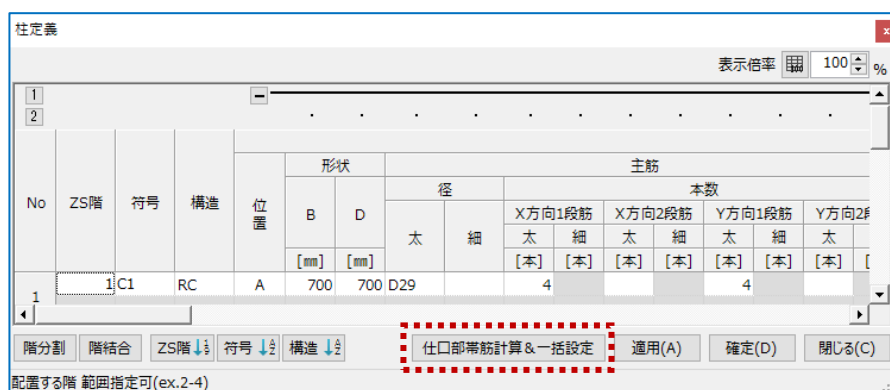
➤ 柱定義

(操作メニュー)

SIRBIM[部材定義]-[柱定義]-[柱定義]



仕口部帯筋計算 & 一括設定に「選定計算」機能を追加しました。

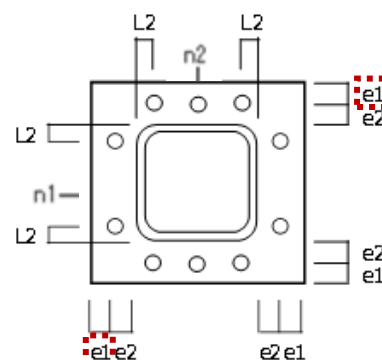
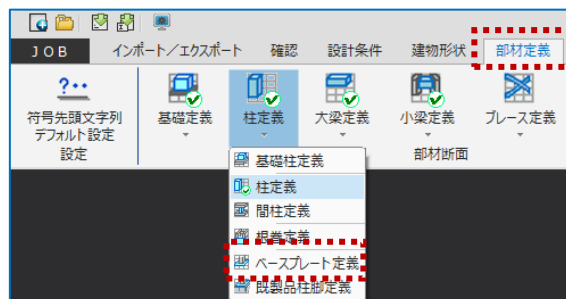


判定条件を満たすように「径選定」、「本数選定」、「ピッチ選定」で計算することができます。

➤ ベースプレート定義

(操作メニュー)

SIRBIM[部材定義]-[柱定義]-[ベースプレート定義]



BOX 柱のタイプ 2 選択時に、e1(へりあき)の入力が行えるよう変更しました。

BPL定義																	
No	Z階	符号	形状 パターン	ベースプレート				下端 レベル	径 AB	材料種別	アンカーボルト						絞り h
				形状 タイプ	板厚 BP	材料種別	長さ L				へりあき e1	はしあき e2	本数1 n1	本数2 n2	位置1 L1	位置2 L2	
					[mm]						[mm]	[mm]			[mm]	[mm]	
1	1	C1	B	2	32	SNR400		24	SNR400	500	100	80	3	3		-80	

※L2：BOX 柱面から内側への距離を入力します。

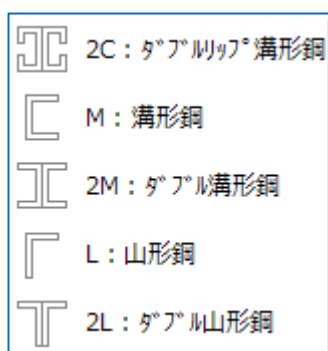
アンカーボルトを BOX 柱面より外側に配置する場合、L2 には負値を入力してください。

SIRBIM で入力できるベースプレートタイプ等については、

SIRBIM マニュアル[操作編] 5.4.11『ベースプレート定義』をご参照ください。

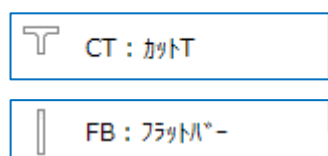
➤ 小梁定義

下記の鋼材断面を新たに追加しました。



➤ プレース定義

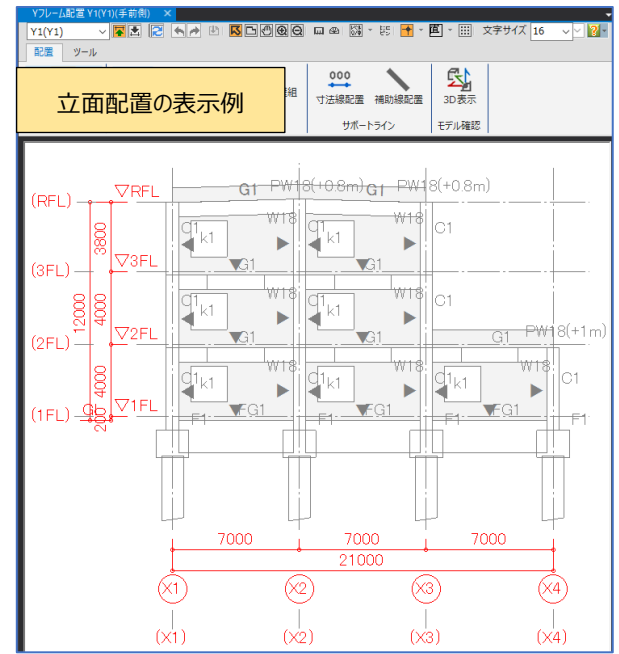
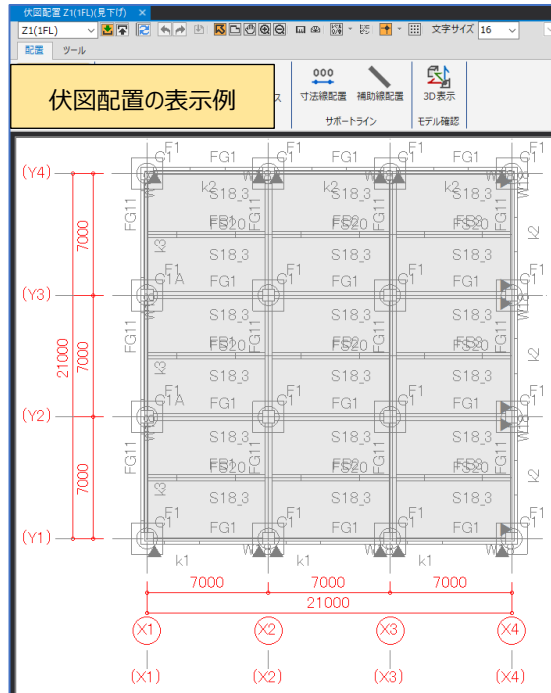
下記の鋼材を新たに追加しました。



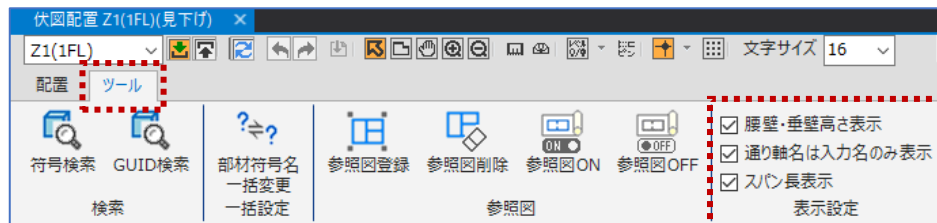
- 配置画面に、スパン長および階高を表示する設定を追加しました。

通り軸名表示 2 つの違いは、外側の軸名は節点移動を考慮した場合の軸名、

内側の軸名は、節点移動を考慮しない(スパン長入力)の軸名をそれぞれ表示しています。

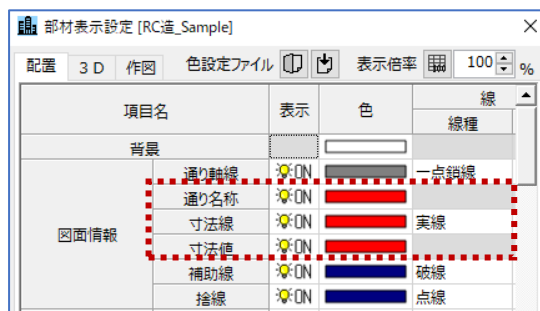


ON/OFF は、配置メニュー> ツールまたは、右クリックメニュー> ツールから行えます。

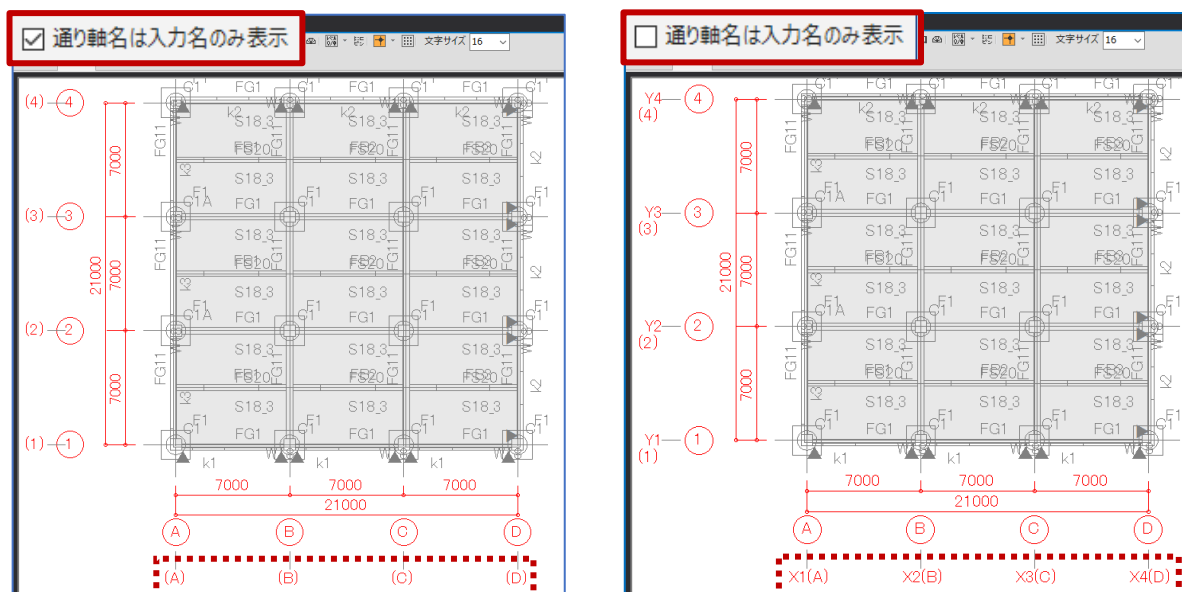


上記は、配置メニューからの切り替え表示画面です。

表示色等は、SIRBIM[JOB]-[部材表示設定]-[配置タブ]の図面情報カテゴリ内、通り名称、寸法線、寸法値の内容となり、ここで変更することができます。



- 配置画面に、「通り軸名は入力名のみ表示」の設定を追加しました。



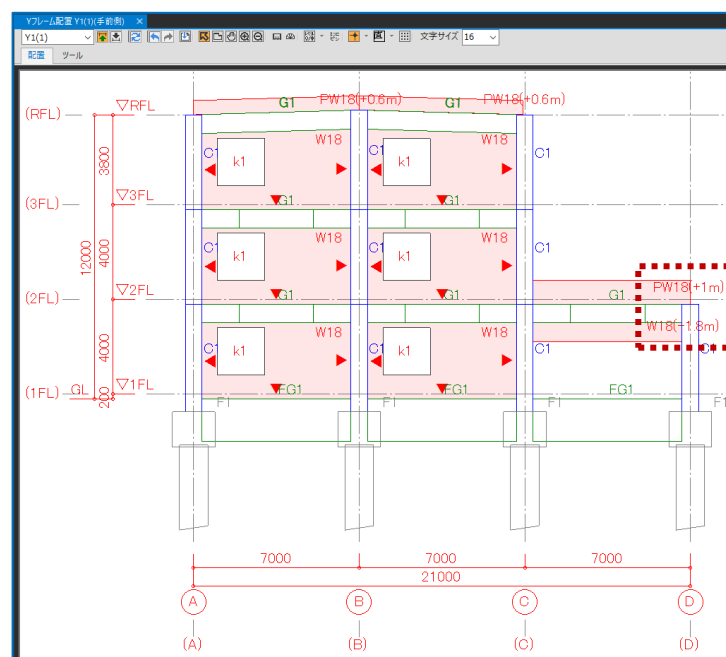
チェックを入れた場合、上記左図のように計算モデルの軸名のみが表示されます。

チェックを外した場合、上記右図のように SIRBIM 通り軸名と計算モデルの軸を表示します。

ON/OFF は、配置メニュー> ツールまたは、右クリックメニュー> ツールから行えます。

- 伏図配置、立面配置に、腰壁・垂壁の高さ表示を追加しました。

下記は、立面配置における腰壁(パラペット)、垂壁の高さ表示を ON とした場合です。



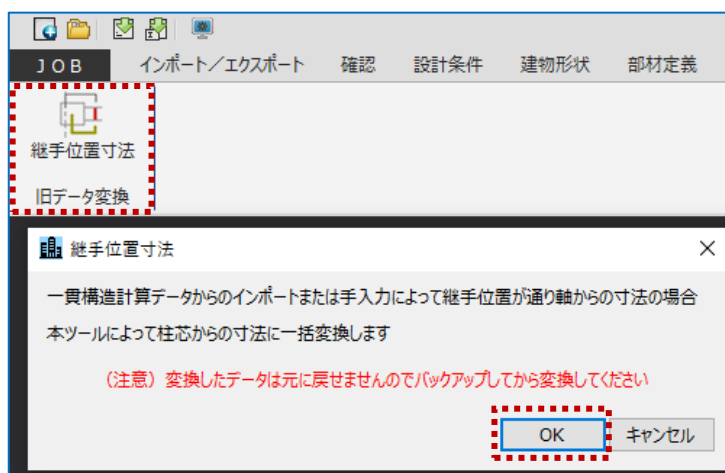
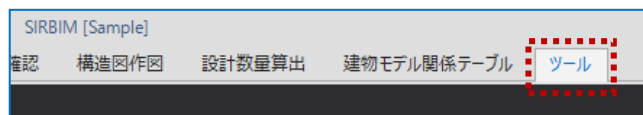
ON/OFF は、配置メニュー> ツールまたは、右クリックメニュー> ツールから行えます。

- 鉄骨大梁継手位置について、通り軸からの距離から柱芯からの距離に変更しました。

旧データ（梁継手位置が通り軸からの距離）を一括で柱芯からの距離へ変換できます。

（操作メニュー）

SIRBIM[ツール]-[継手位置寸法]



（ご注意）

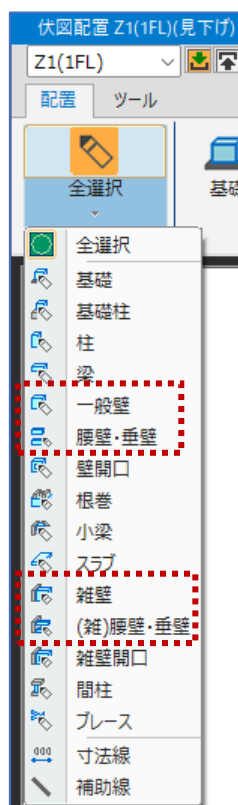
継手位置変換後は、Undo/Redo できませんので、バックアップ後に実行してください。

- 配置時の部材選択で、壁を「一般壁」と「一般壁の腰壁・垂壁」の二つに分割しました。
- 配置時の部材選択で、雑壁を「雑壁」と「雑壁の腰壁・垂壁」の二つに分割しました。

(操作メニュー)

SIRBIM[部材配置]-[伏図形式配置] 画面左上から部材種別を確認できます。

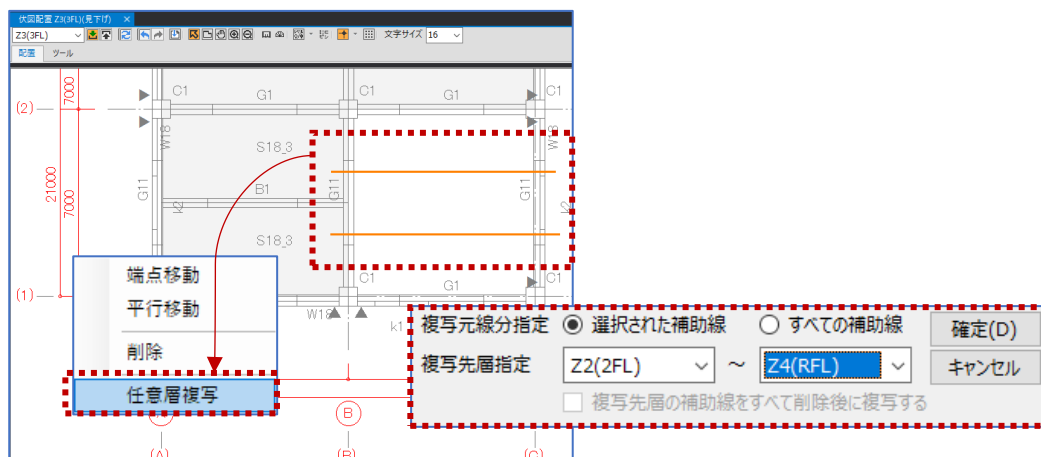
下記は、伏図配置での部材種別選択の例です。



- 配置画面で、階表示の上下移動、フレーム表示の移動を、
[Alt]+矢印キー(上下左右) で切り替えられようになりました。

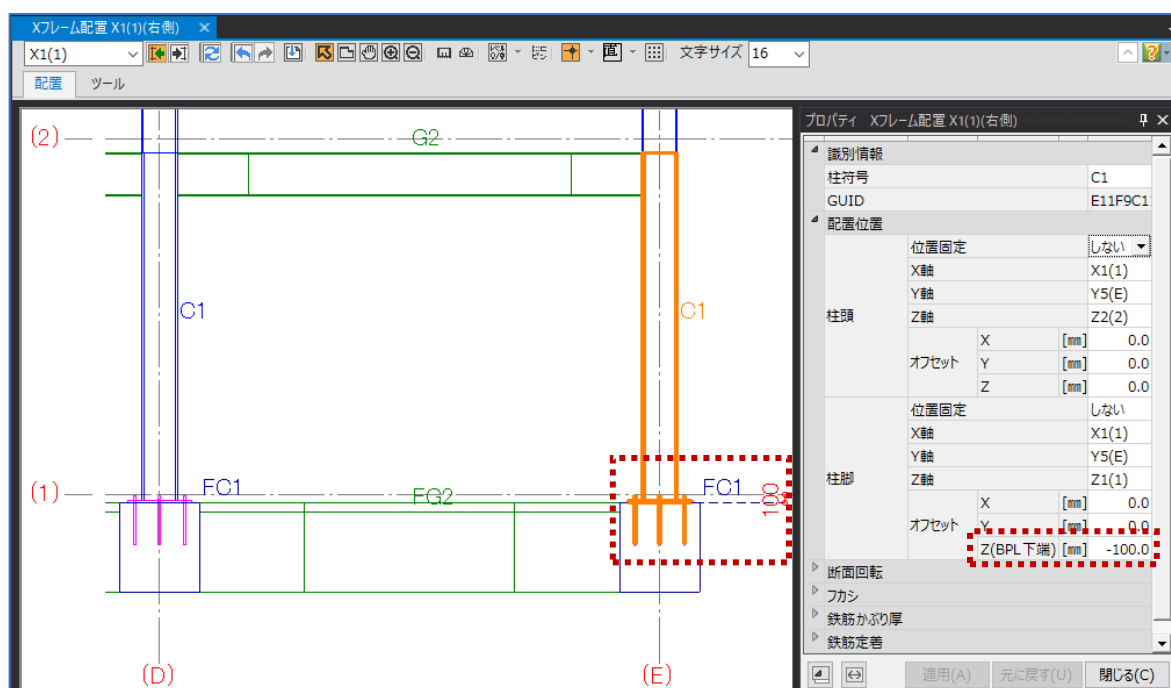
- 伏図配置の補助線配置の任意層複写に対応しました。

伏図配置で配置済みの補助線を選択して、右クリック> 任意層複写から、指定した層の同一位置に補助線を複写できます。



補助線配置は、**SIRBIM マニュアル[操作編] 5.5.10.2『補助線配置』**をご参照ください。

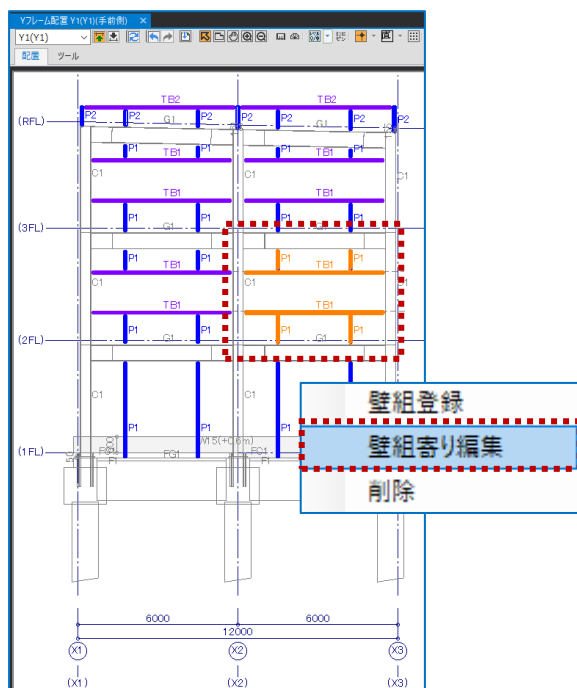
- 鉄骨柱の柱脚オフセット Z をベースプレート下端位置に変更しました。



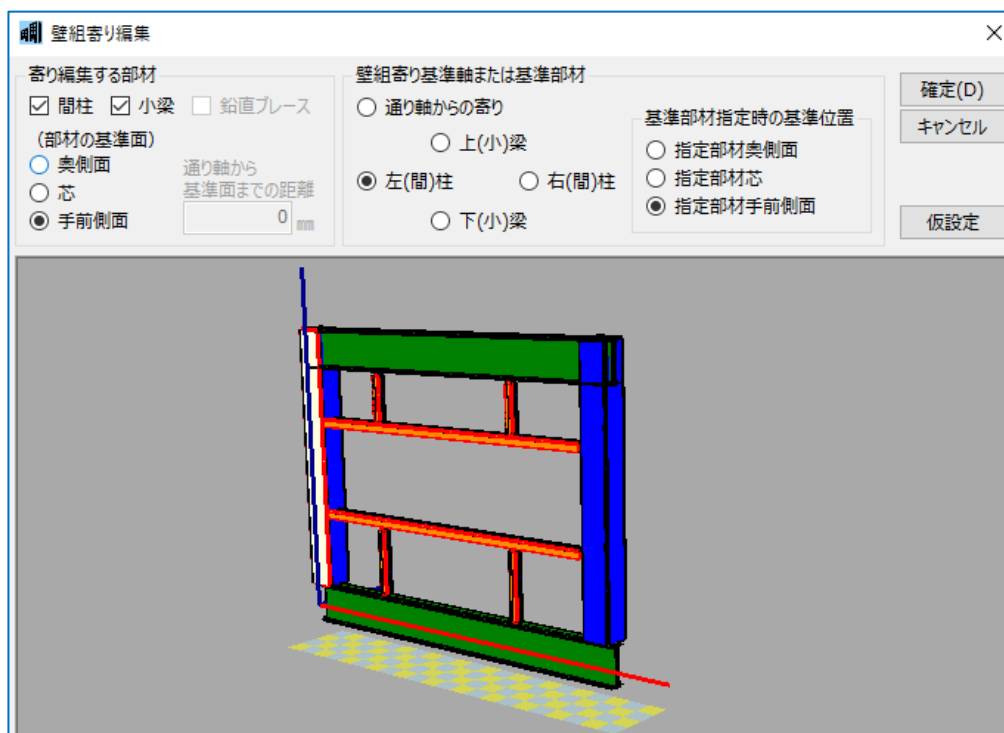
計算ソフトから既製品柱脚を変換した場合も鉄骨柱脚が BPL 下端レベルで変換されます。

- 壁組寄り設定機能を追加しました。

下記は、立面配置にて壁組部材として、間柱、鉄骨小梁を配置した状態です。



壁組配置は、**SIRBIM マニュアル[操作編] 6.3『壁組の登録・配置』**をご参照ください。
配置済の壁組部材を選択して、右クリック> 壁組寄り編集から、選択して壁組部材のみ
3D 表示しながら接続先の柱や大梁に合わせた寄りの編集を行うことができます。

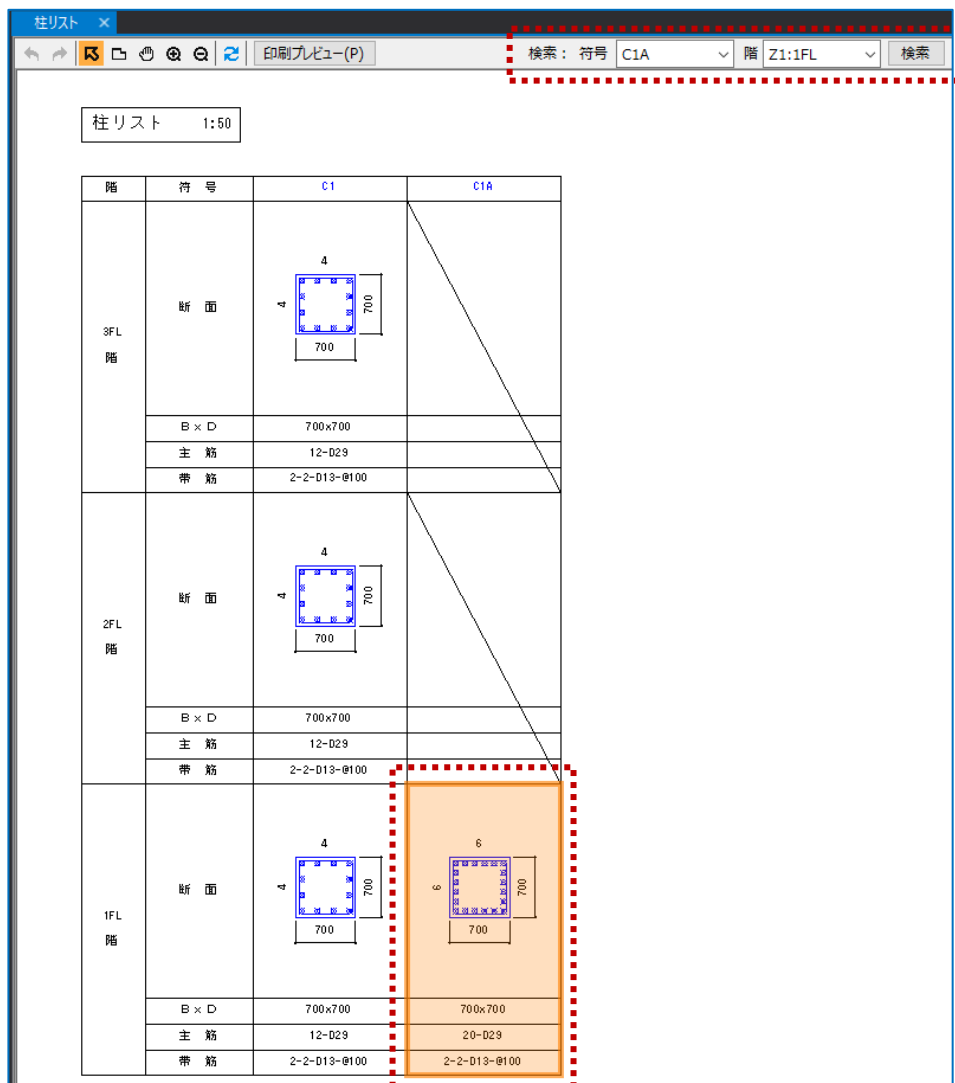


■リスト図確認

- リスト図確認専用の作図設定を追加しました。
構造図＞断面リスト作図設定にて、「リスト図確認設定登録」することで、
断面リスト作図設定の内容をリスト図確認設定へと登録することができます。



- 符号検索機能を追加しました。
符号名、定義階で検索することで該当の符号がハイライト表示されます。



■ 構造図作図

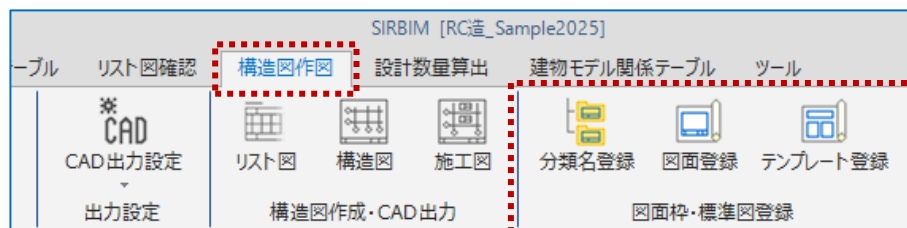
- 図面枠・標準図の登録およびテンプレート登録に対応しました。

リスト図または構造図のレイアウトにおいて、登録した図面枠、標準図を使用できます。

予め 2D CAD で作成した、用紙枠や特記事項等を登録して、テンプレート登録、リスト図レイアウト、構造図レイアウトで使うことができるようになりました。

(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[図面枠・標準図登録]



- ・ 分類名登録

分類名として「図面枠」は登録されています。

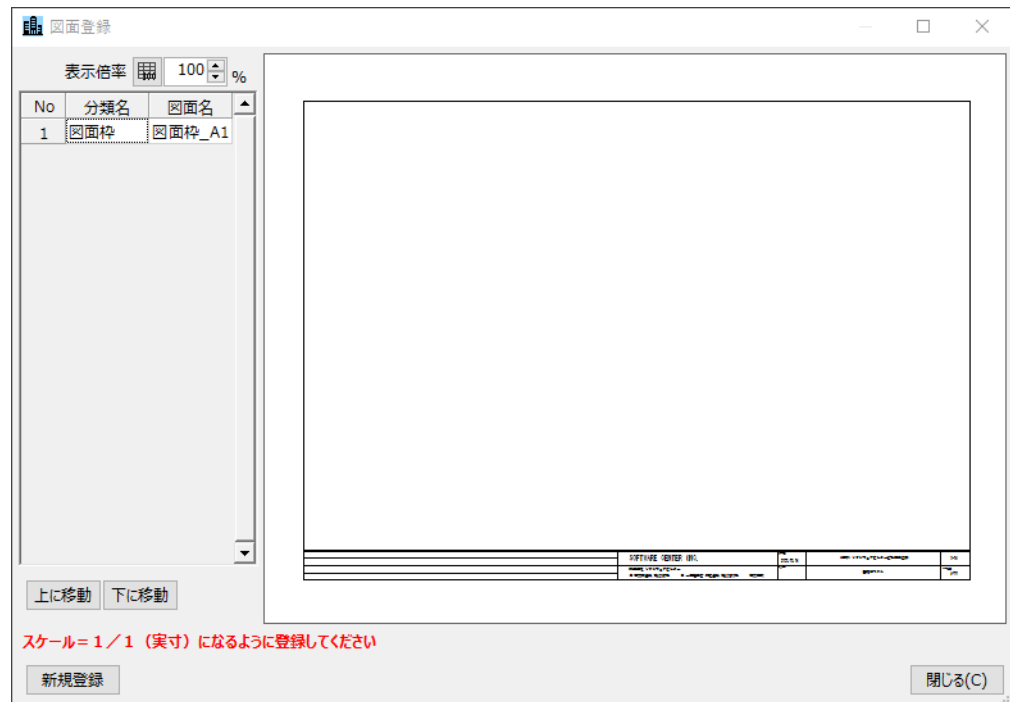
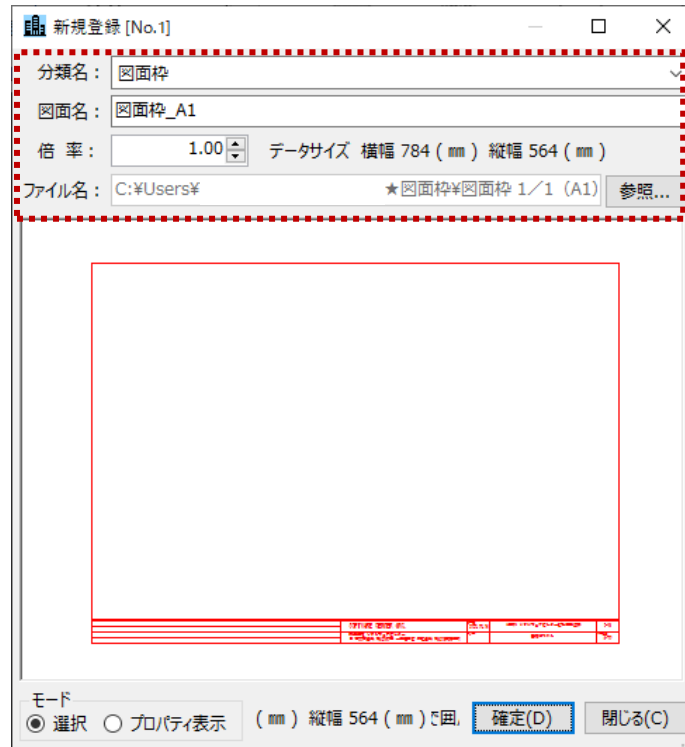
「図面枠」以外で分類を分けて登録することで図面登録の際に管理し易くなります。



- 図面登録

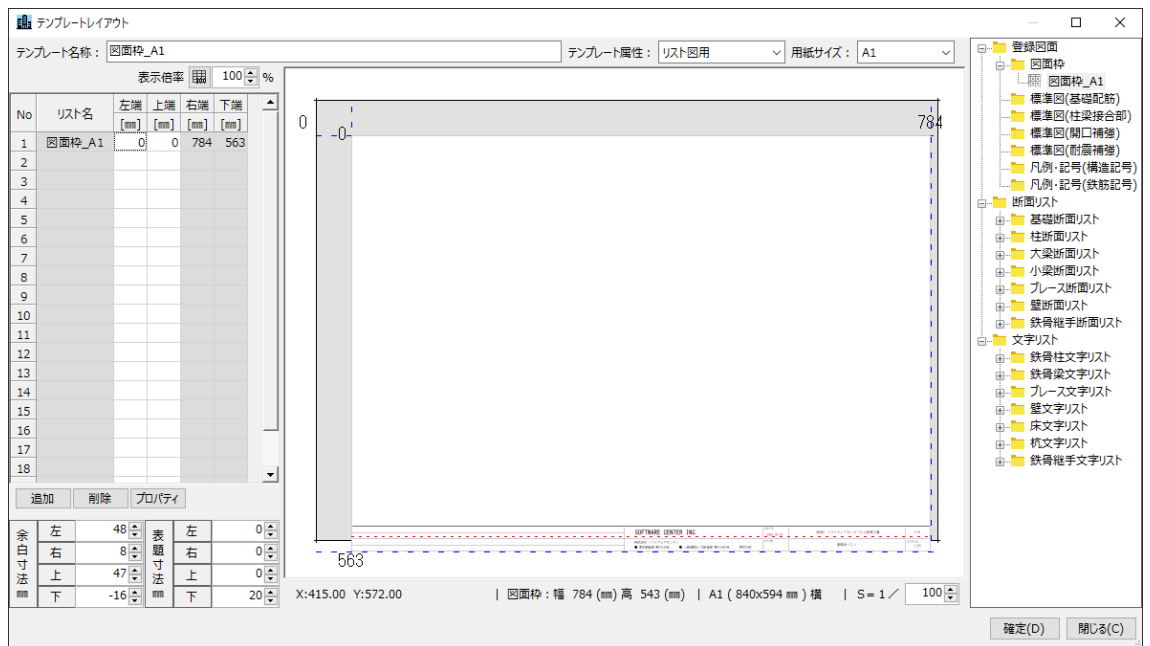
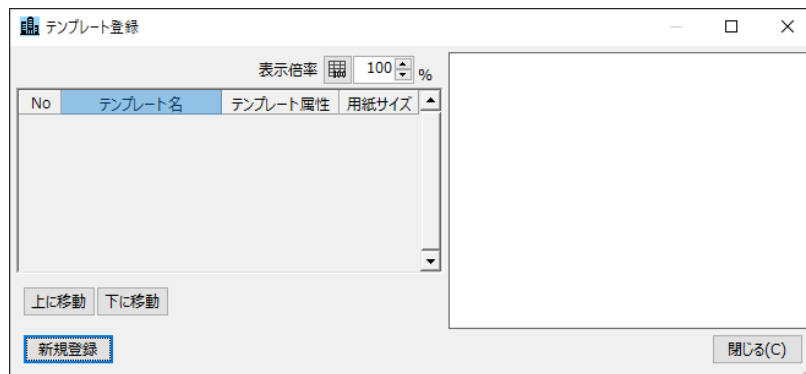
標準図等レイアウト時に貼り付けたい図を事前に登録しておきます。

分類名登録した分類、任意の図面名指定後、作成済みの図面枠や特記などの DXF データまたは JWW データのファイルを選択して読み込みます。



- ・ テンプレート登録

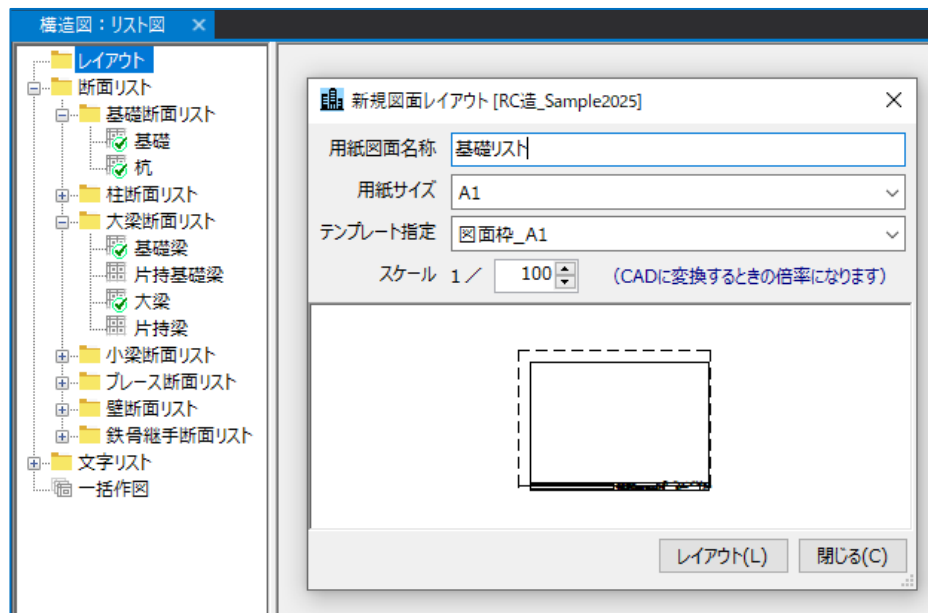
リスト図、構造図のレイアウト機能と同様に、図面枠、図面登録された標準図等を予めレイアウトしてテンプレートとして登録しておくことで、同じ操作で作成するレイアウトをテンプレート化することで、省力化を図ることができます。



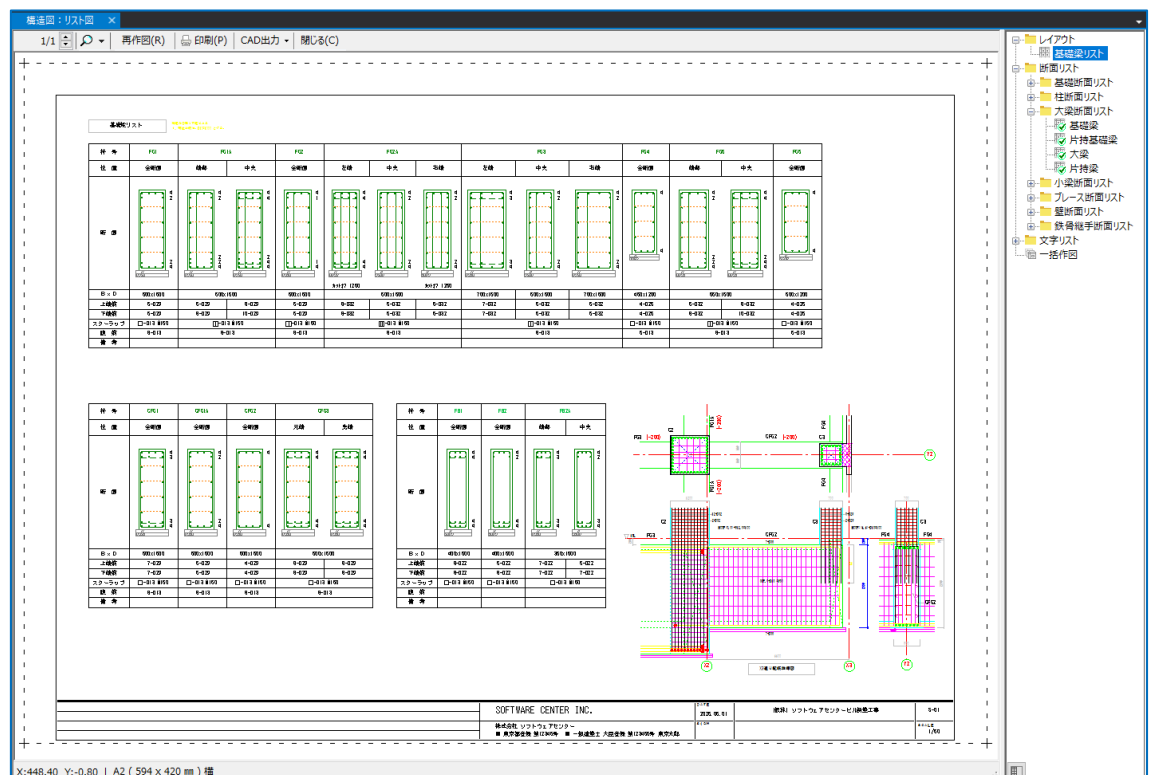
リスト図、構造図のレイアウト時に、テンプレートを指定する事ができ、リスト図用のテンプレートでは、リスト図もレイアウトする事ができます。テンプレート登録した図の文字は編集可能です。また、リスト図、構造図のレイアウトに登録した標準図の文字も編集可能です。

- 断面リストでのレイアウト例

レイアウトを右クリックし、登録済テンプレート指定後にレイアウトを行います。



下記は、基礎梁リストで図枠、特記、詳細図をレイアウトした例です。



➤ 作図設定管理

(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[作図設定管理]



作図設定について、グループ名を指定して管理できるようにしました。例えば、お客様毎に作図設定が異なるような場合、A 社用作図設定、B 社用作図設定等、管理テーブル名登録し、各項目の作図設定をその管理テーブル名にひも付けて管理できるようにしました。



SIRCAD Ver.6 作図設定読み込み

SIRCAD Ver.6 で作成した作図設定を読み込む事ができます。

システムテーブルの一括使用設定

管理テーブル名を指定して、現在の JOB 名に一括で、作図設定を指定出来ます。

SIRCAD Ver.6 設定 標準テーブル 確認・修正 一覧表示・削除

SIRCAD Ver.6 で設定できる設定をできる限り、SIRBIM でも使用できるようにしました。操作方法は、**SIRBIM マニュアル[SIRCAD 作図設定編]**をご参照ください。

➤ 文字・寸法設定

(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[文字・寸法設定]



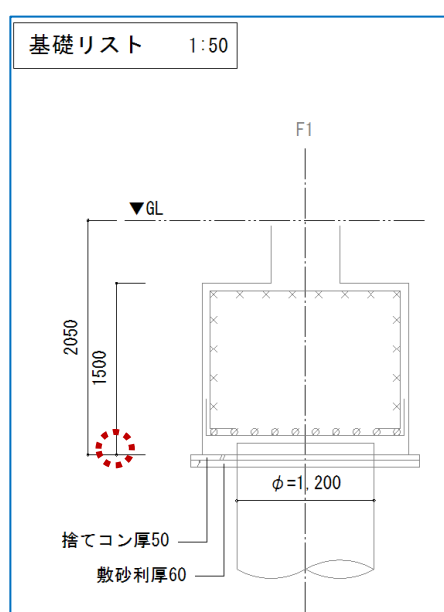
文字サイズ、寸法線長さ、寸法アキが図面ごとに設定できるようになりました。



寸法線のアキに「0」が指定できるようになりました。

2 段の寸法線の場合に寸法線同士の隙間なく作図できます。

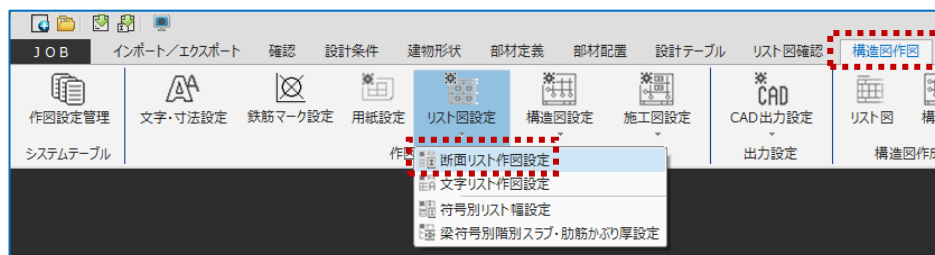
下記の赤丸破線は、基礎リストで寸法線のアキ「0」とした例です。



➤ 断面リスト作図設定

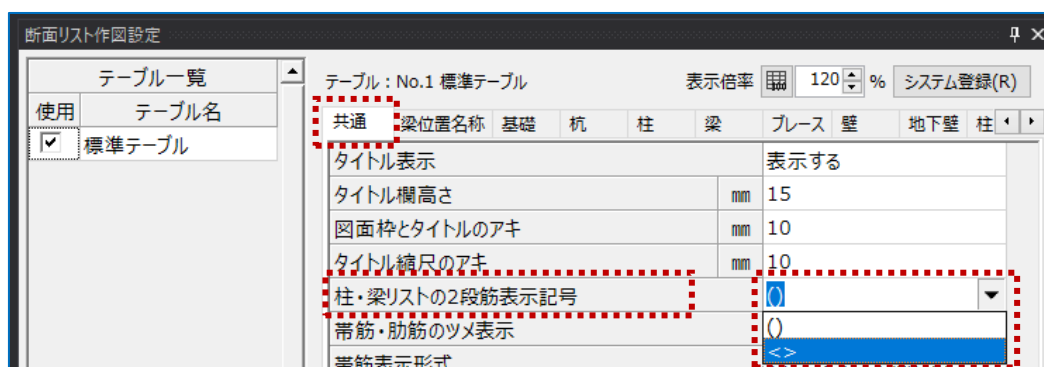
(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[リスト図設定]-[断面リスト作図設定]



・ 共通タブ

柱・梁リストの 2 段筋表示記号で () の他に < > が選択できるようになりました。



下記は、基礎梁リストの例です。

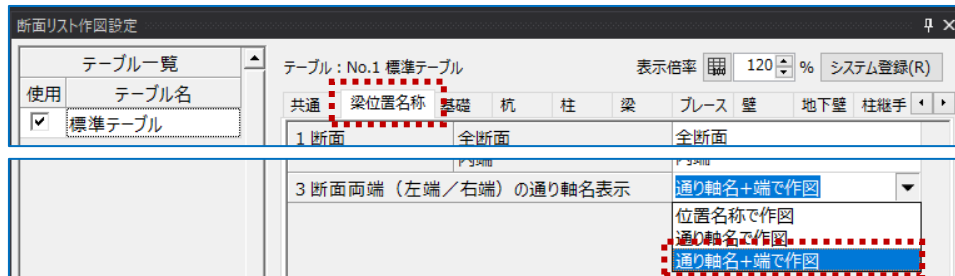
2 段筋記号 () 表示	
符 号	FG1
位 置	全断面
断 面	
B × D	400×1,800
上端筋	3+3-D29
下端筋	3+2-D29
肋 筋	2-D13-@200
腹 筋	10-D13

2 段筋記号 < > 表示	
符 号	FG1
位 置	全断面
断 面	
B × D	400×1,800
上端筋	3+3-D29
下端筋	3+2-D29
肋 筋	2-D13-@200
腹 筋	10-D13

- ・ 梁位置名称タブ

3 断面 LCR の場合に「通り軸名+端で作図」を追加しました。

梁リストの位置名に梁端部の配置軸の始終端軸名+端で作図できるようになりました。



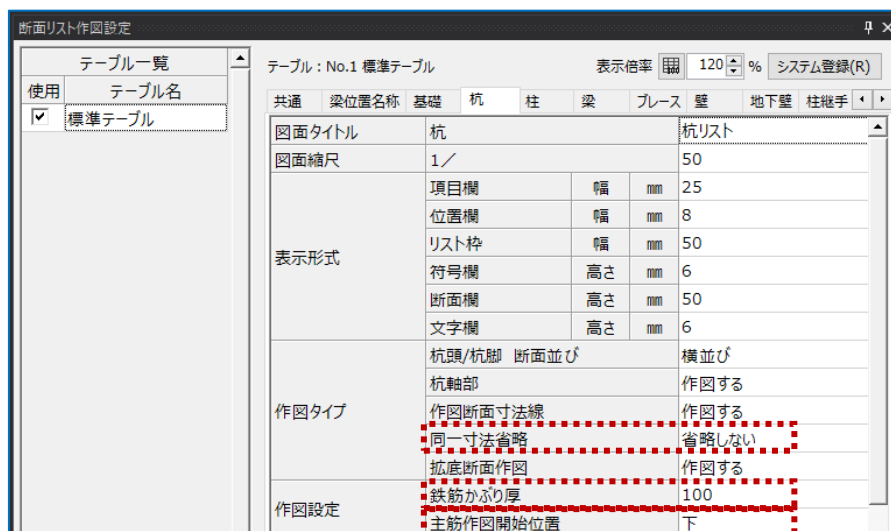
下記は、基礎梁リストにて、配置通り軸+端で指定した例です。

FG11		
Y1端	中央	Y2端
500x1,800		
3+2-D29	2+2-D29	2+2-D29
3+2-D29	2+2-D29	2+2-D29
2-D13-@200		
10-D13		

- ・ 杭タブ

下記の3つの設定を SIRCAD 作図設定から断面リスト作図設定へ移動しました。

同一寸法省略設定、鉄筋かぶり厚設定、主筋作図開始位置(上／下／左／右)設定

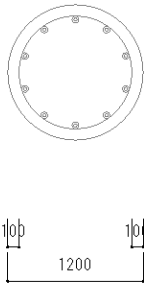
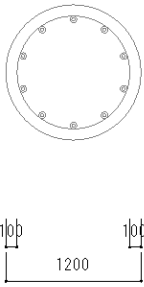
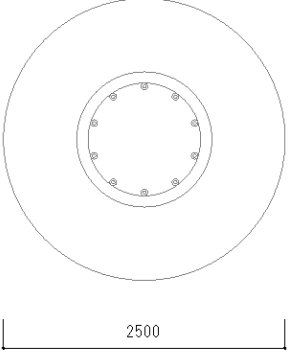


- 杭タブ

杭定義の仕様変更に伴い作図仕様を変更しました。

下記は、杭リスト(横並び)の例です。

※設定により、杭頭部、杭軸部、杭脚部を縦並びで作図できます。

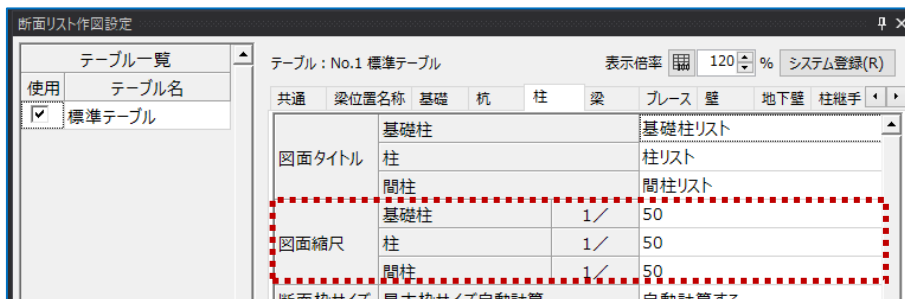
杭リスト 1:50			
杭符号	P1		
位置	杭頭部	杭軸部	杭脚部
断面			
杭径	1,200 φ	1,200 φ	2,500 φ
鋼管厚	9.00mm (STK490)	-	-
鋼管長	6.00m	-	-
主筋	10-D32	10-D32	10-D32
帯筋	○-D13-@150	○-D13-@150	○-D13-@300
区間長	8.00m	8.00m	8.00m
施工径			2,600 φ

杭リストの主な仕様変更内容は下記です。

- 杭のコンクリート部分と鉄筋部分で杭頭部、杭軸部、杭脚部で統一しました。
- TB 杭の場合に杭頭部に鋼管厚(mm)、鋼管長(m)を指定できるようになりました。
- 帯筋記号が、□から○に変更となりました。
- 施工径は入力があれば入力値を、入力値がなければ設計径+100 mmの値を作図します。

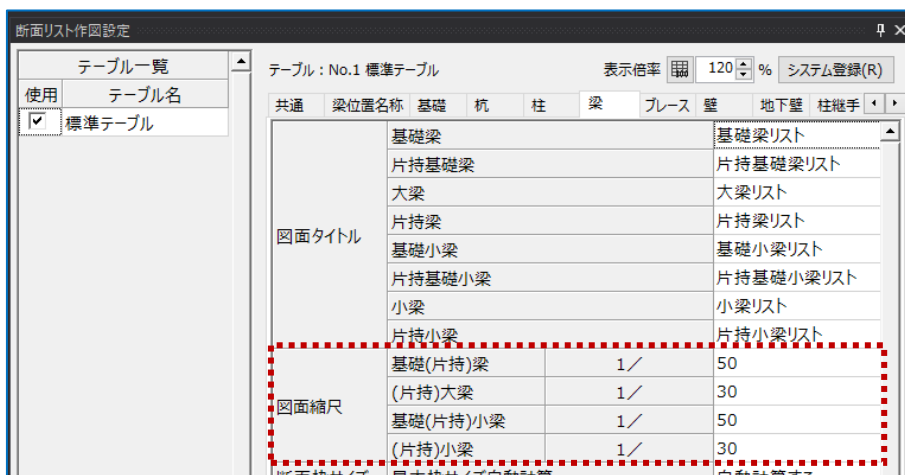
- 柱タブ

基礎柱、柱、間柱でリスト図の縮尺を別々に設定できるようになりました。



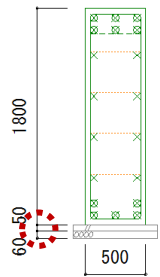
- 梁タブ

基礎梁、大梁、基礎小梁、小梁でリスト図の縮尺を別々に設定できるようになりました。

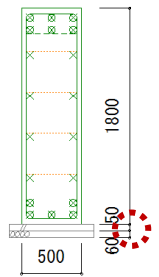


基礎梁リストで地業寸法が梁成寸法とずれて作図される問題を修正しました。

寸法線表示：左

符 号	FG1
位 置	全断面
断 面	
B x D	500x1,800
上端筋	3+3-D29
下端筋	3+2-D29
肋 筋	2-D13-@200
腹 筋	8-D13

寸法線表示：右

符 号	FG1
位 置	全断面
断 面	
B x D	500x1,800
上端筋	3+3-D29
下端筋	3+2-D29
肋 筋	2-D13-@200
腹 筋	8-D13

➤ 構造図作図設定

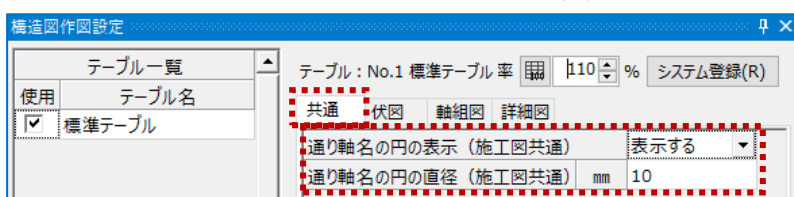
(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[構造図設定]-[構造図作図設定]



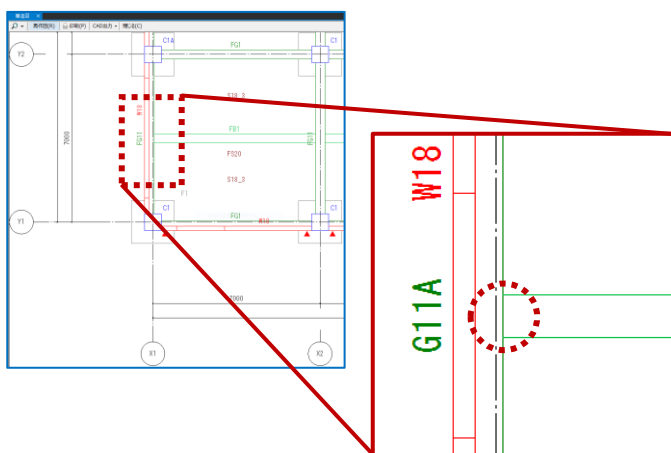
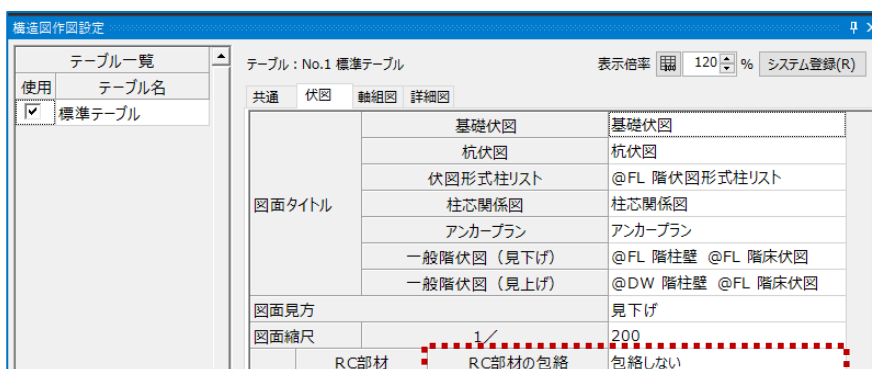
- ・ 共通タブ (新規追加されたタブ)

通り軸名の円の表示設定、通り軸名の円の直径を変更することができます。



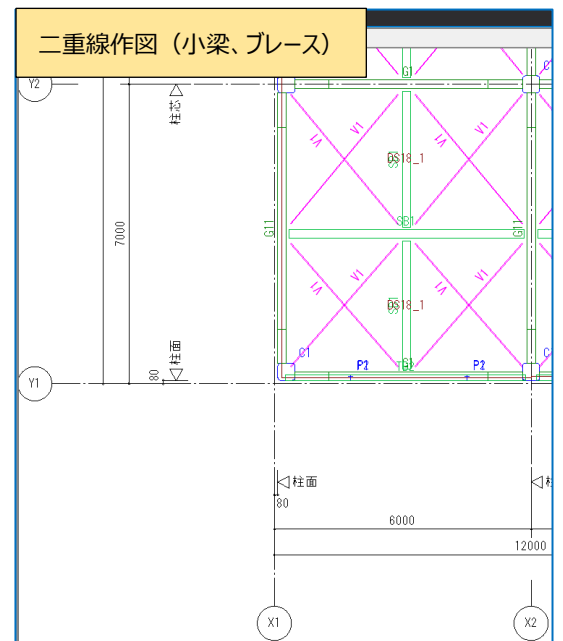
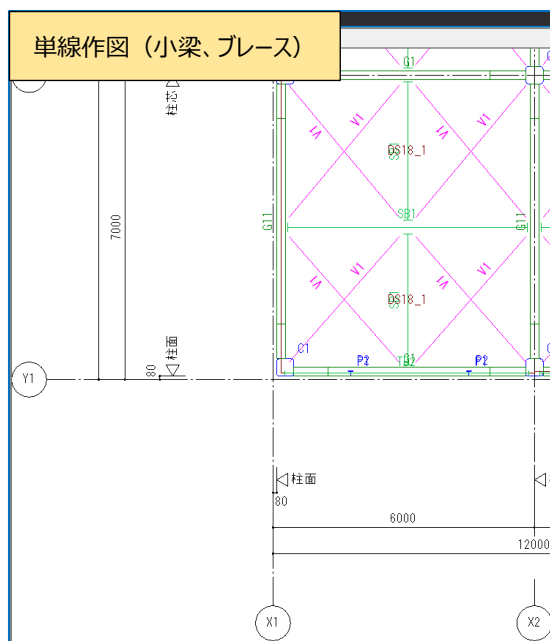
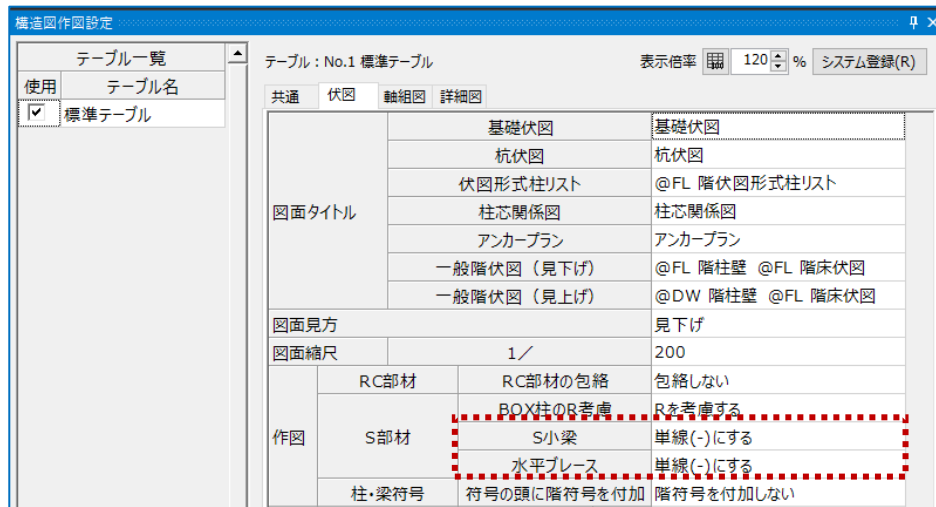
- ・ 伏図タブ

RC 柱・RC 梁等の包絡する／しないを選択して作図できるようになりました。



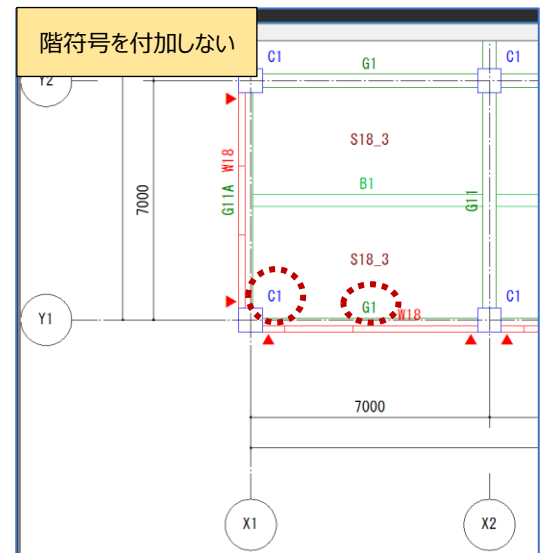
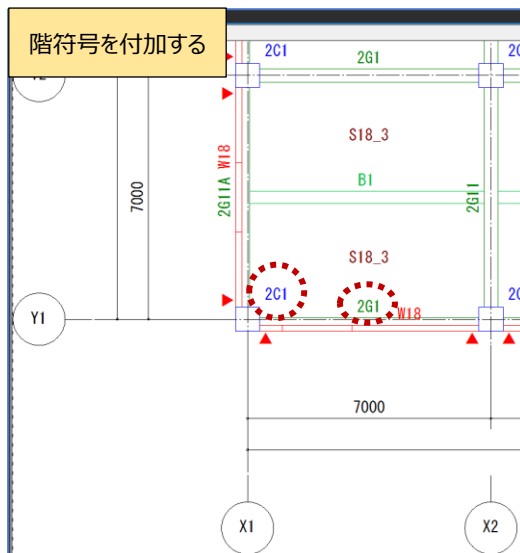
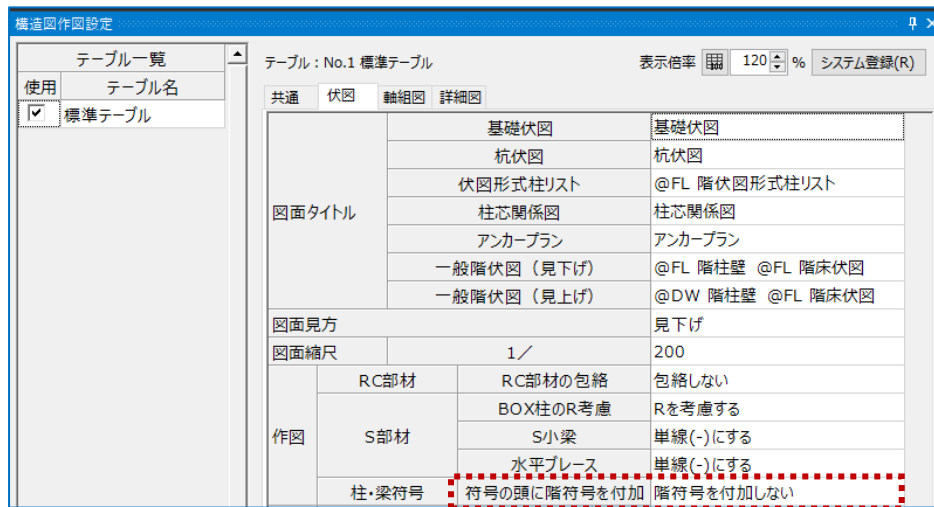
RC 部材同士の接合でレベル差の有無によらず包絡する／しないを選択して作図できます。
(Ver.2 以前では、RC 部材でレベル差がない場合は自動で包絡していました。)

- ・ S 小梁、ブレース(水平、鉛直)を単線／二重線で選択して作図できるようになりました。



小梁、ブレースとともに二重線で作図する場合、部材の幅で作図を行います。

- 柱・梁符号に階符号を付加する／付加しないを選択して作図できるようになりました。



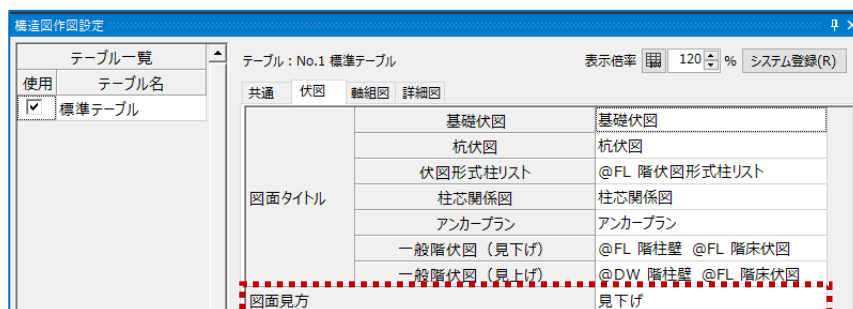
定義で階を入力できる部材については、符号前に階符号を付けて作図となります。

定義で階を入力できない部材については、本設定の影響を受けません。

階符号が付く部材：柱、大梁

階符号が付かない部材：基礎梁、小梁、壁、スラブ 等

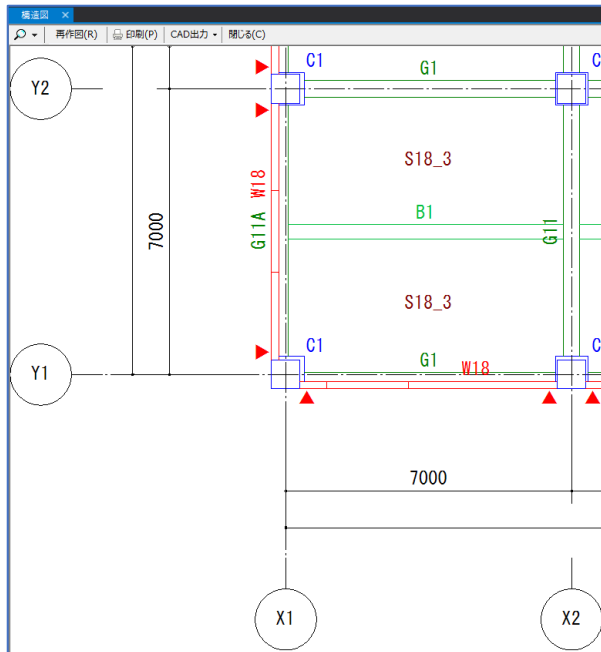
- 伏図の図面見方（見上げ／見下げ）の初期値設定を追加しました。



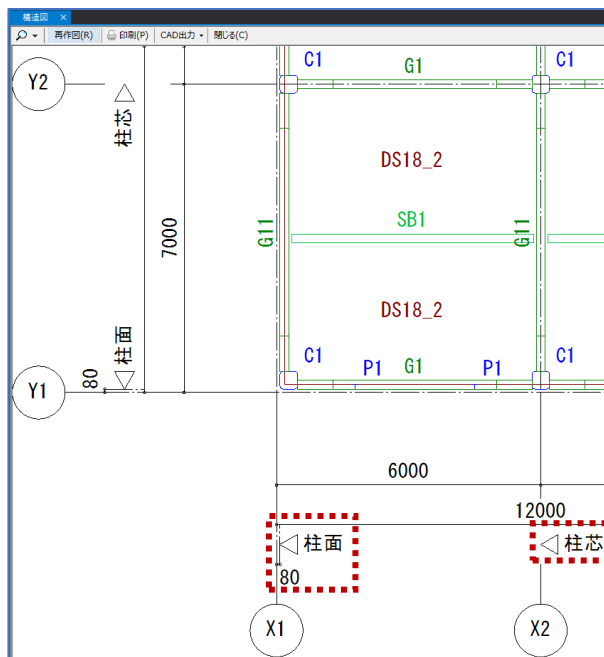
- ・ 伏図作図の仕様変更

下記は、作図設定では変更ができない伏図作図仕様の変更点となります。

- ・ 作図階の柱より下階の柱サイズが大きい場合に下階柱を作図するよう変更しました。
作図階の柱サイズより下階の柱サイズが大きい場合、下記のような伏図となります。



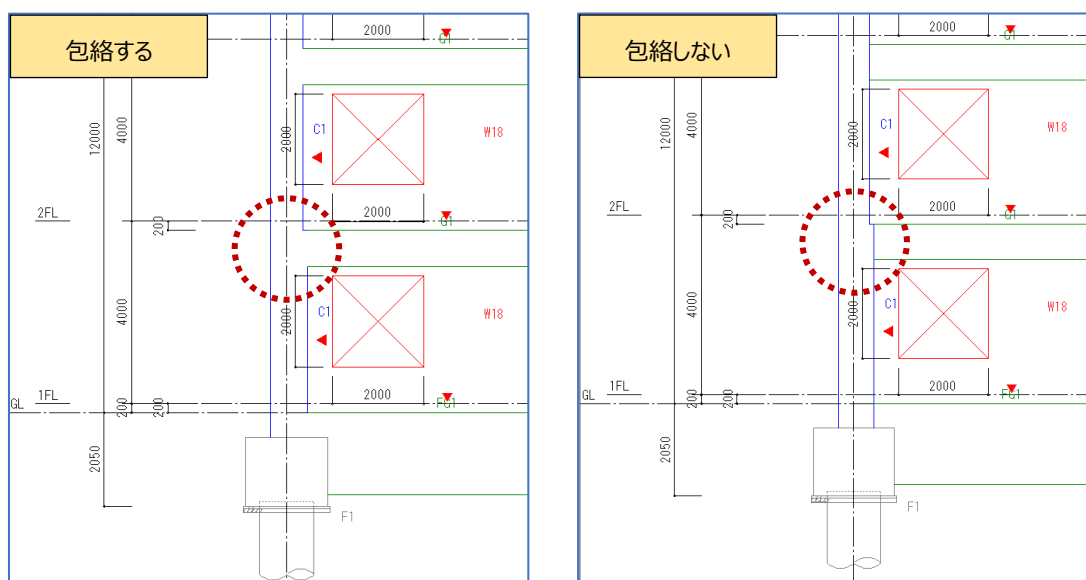
- ・ 鉄骨柱の場合に柱位置を△柱面、△柱芯で表示します。
柱面は、通り軸からの距離を表示するよう変更しました。



- ・ 軸組図タブ
- ・ RC 柱・RC 梁等の包絡する／しないを選択して作図できるようになりました。



下記は、RC 部材で包絡する／しないとした場合の軸組図作図例です。

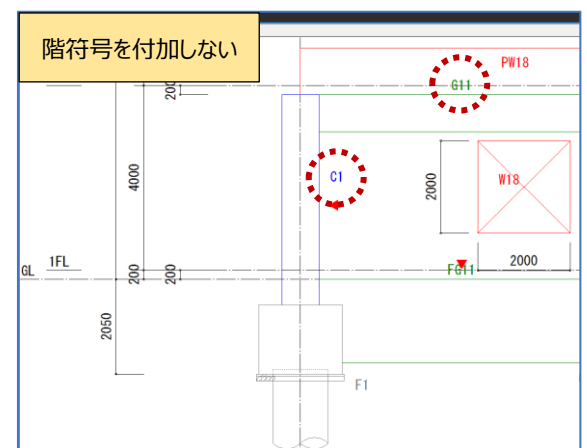
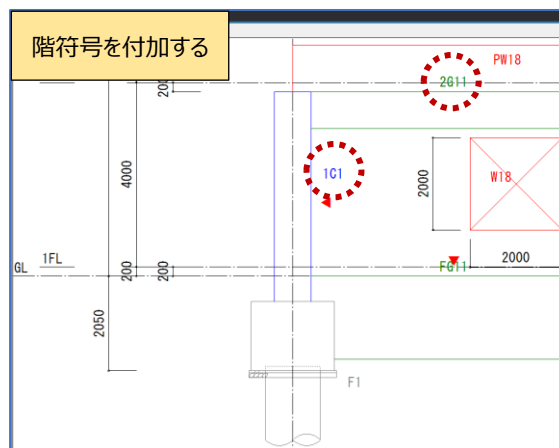
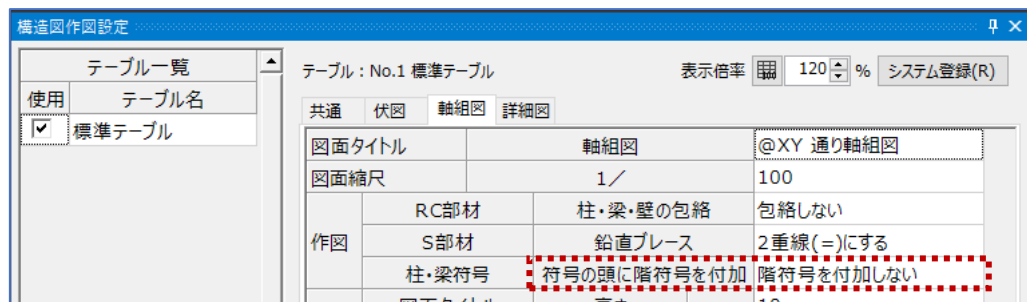


包絡しないとした場合、柱と大梁との間に線が入ります。

包絡するとした場合、図面見方の方から見て柱と大梁が同一面にある場合のみ包絡します。

※包絡するとした場合でも柱と大梁で面が合っていない場合、柱と大梁の間に線が入ります。

- ・ 符号に階符号を付加する／付加しないを選択して作図できるようになりました。



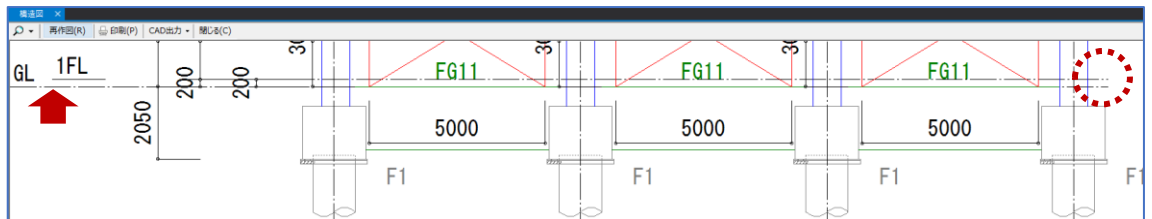
定義で階を入力できる柱と大梁については、符号前に階符号を付けて作図されます。

定義で階を入力できないその他の部材については、本設定の影響を受けません。

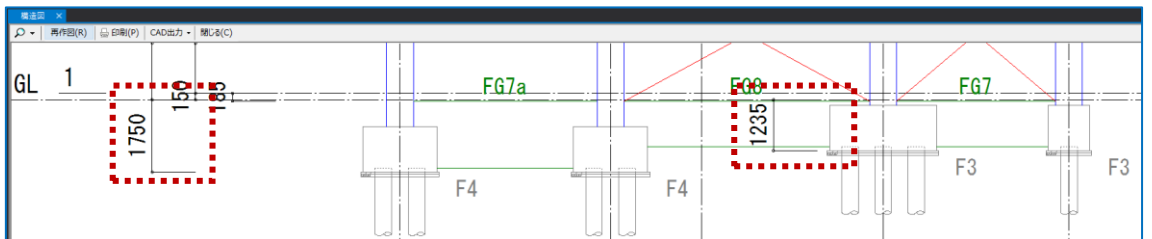
- 軸組図、架構詳細図の仕様変更

以下は、作図設定では変更ができない軸組図作図仕様の変更点となります。

- 軸組図、架構詳細図において、GLとZ軸終端を同じ位置で作図するよう変更しました。
下記は、軸組図 GL の例です。線分終端がZ軸(FL線)と同じ所までで作図されます。



- 軸組図、架構詳細図において、基礎下端レベルが異なる場合に作図するよう変更しました。
下記は、軸組図の例です。F4 : GL-1750 mmと異なる、F3 : GL-1235 mmを作図します。

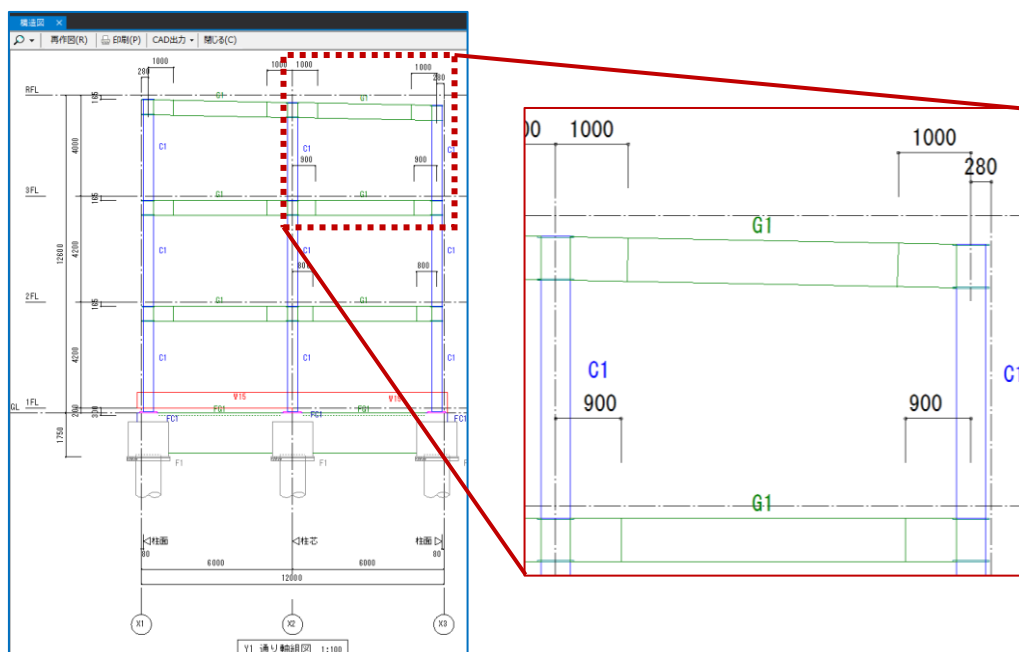


基礎下端レベルが異なる場合の作図は下記の内容で行います。

- 一番左の基礎レベルは必ず作図します
- 1つ左隣の基礎を見て同じレベルの場合は作図しません
- 1つ左隣の基礎を見て異なるレベルの場合は作図します

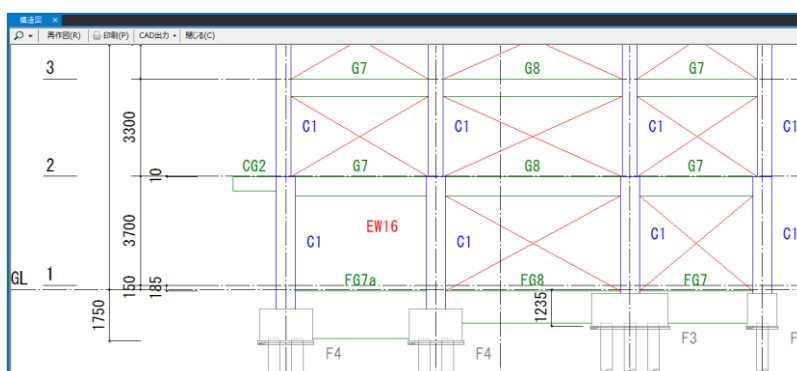
※基礎下端レベルの押さえ基点は GL となります。

- 軸組図、架構詳細図において、鉄骨継手位置が異なる場合に作図するように変更しました。



最上階の継手距離は表示し、上階から下階の順に見て、
一つ上の階と異なる継手距離は表示するように変更しました。

- 軸組図において、壁開口がない箇所には「×」となるように変更しました。

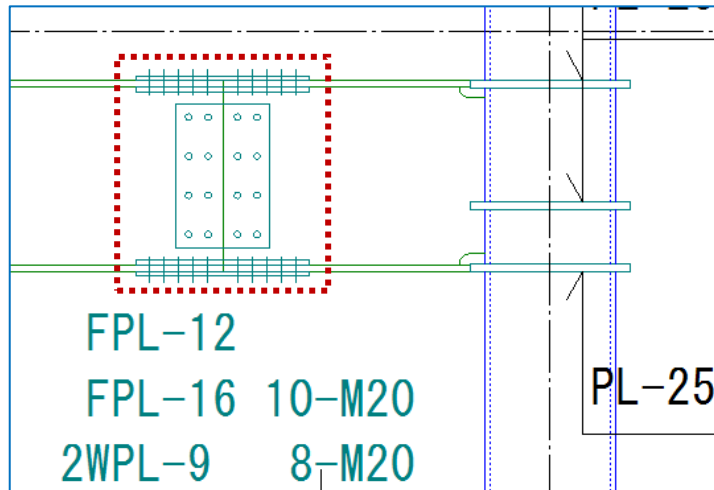


壁配置があるスパンには、該当の壁符号、壁配置がないスパンには「×」が作図されます。

「×」部分の CAD 出力時のレイヤーは、壁＞開口線レイヤーとして出力されます。

項目名	レイヤー名	色	線種
符号	14	7	実線
躯体線	24	1	実線
フカシ線	24	1	実線
縦筋	44	1	実線
横筋	44	1	実線
幅止筋	44	1	実線
開口符号	15	1	実線
開口線	24	1	実線

- ・ 架構詳細図の作図スピードを高速化しました。
- ・ S 架構詳細図で継手ボルトを上図のように○で作図するよう変更しました。

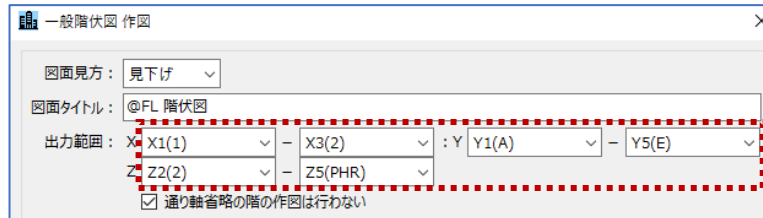


- ・ 伏図、軸組図、架構詳細図の仕様変更
- ・ 節点移動があるモデルの場合に、データ変換の際に配置の節点移動を作図軸に変換していましたが、これを廃止しました。これに伴い、節点移動で作図軸の入力を行わない限り、伏図、軸組図、詳細図では節点移動を含まない元の通り軸（水平、垂直）で作図されます。

- ・ 構造図作図の仕様変更

以下は、構造図作図仕様の変更点となります。

- ・ 構造図作図範囲指定に軸名称・フロア名称を表示するよう変更しました。



例) X1(1)の場合、X1 は SIRBIM 上での軸名称、(1)は計算から渡ってきた軸名で、出力範囲の軸名選択時に、SIRBIM と計算両方の軸名を表示するよう変更しました。

- ・ 構造図作図において、同一層、同一フレームでの図面を複数作図できるよう変更しました。
下記は、一般階伏図にて 2 階伏図とは別に 2FL-2000 位置の伏図を作図する例です。



Ver.2 以前では、図面見方が同じ場合、同じ層、フレームの図面は上書きされていましたが、Ver.3 以降では、元の図面と図面タイトルが異なる場合は元の図面を残したまま新規図面を作図できます。

- ・ 構造図作図において、一括作図が行えるよう変更しました。



作図済み図面を一括で再作図する際にご利用ください。

➤ CAD 出力設定

(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[CAD 出力設定]



- ・ 共通 (AutoCAD、DRA-CAD、Jw_cad)

伏軸詳細図における、寸法線・寸法値のレイヤーを分けて扱えるよう対応しました。

寸法線 引出線 (伏図詳細図)	通り軸	寸法線	150
		寸法値	150
	地業	寸法線	151
		寸法値	151
	基礎	寸法線	152
		寸法値	152
	杭	寸法線	153
		寸法値	153
	基礎柱	寸法線	154
		寸法値	154
	根巻	寸法線	155
		寸法値	155
	RC柱	寸法線	156
		寸法値	156
	RC間柱	寸法線	157
		寸法値	157
	RC梁	寸法線	158
		寸法値	158

スラブ	寸法線	162
	寸法値	162
S柱	寸法線	163
	寸法値	163
S間柱	寸法線	164
	寸法値	164
S梁	寸法線	165
	寸法値	165
S小梁	寸法線	166
	寸法値	166
ブレース	寸法線	167
	寸法値	167
柱脚	寸法線	168
	寸法値	168
継手	寸法線	169
	寸法値	169
仕口	寸法線	170
	寸法値	170

架構詳細図では、引出線と引出文字のレイヤーを分けて出力できます。

- AutoCAD 変換

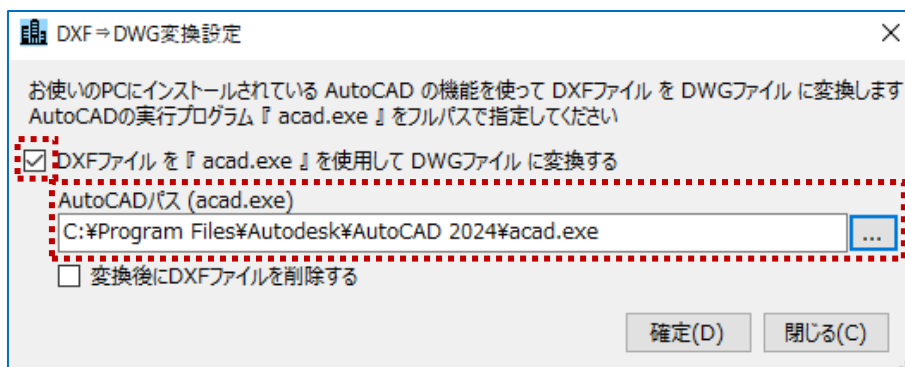
DXF→DWG 変換について AutoCAD および AutoCAD LT に対応しました。

(操作メニュー)

SIRBIM[構造図作図]-[AutoCAD 出力設定]-[DXF⇒DWG 変換設定]



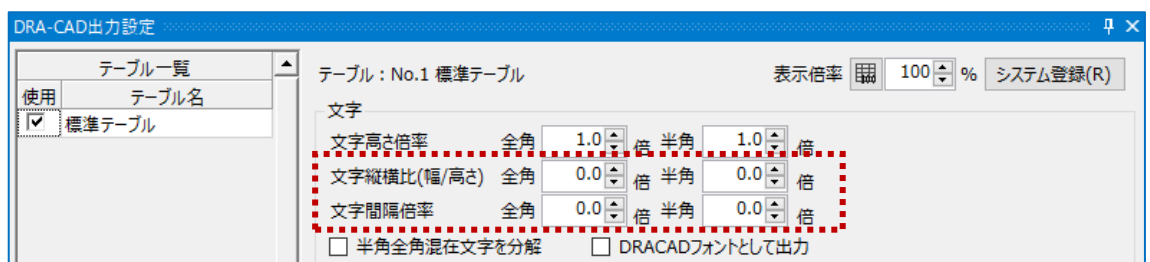
AutoCAD または、AutoCAD LT のメイン EXE を指定して確定ボタンを押下します。



※変換後にDXFファイルを削除するのチェックを外すと、DXFとDWG両方が出力されます。

- DRA-CAD 変換

文字縦横比(幅／高さ)、文字間隔倍率に「0」が指定できるようになりました。



■設計数量算出

- 階別コンクリート強度(Fc)で数量算出ができていませんでした。
SIRBIM[設計テーブル]-[鉄筋の継手長・定着長]で参照する Fc を階別の Fc ではなく、標準の Fc で計算していた問題があり、修正しました。

SIRBIM Ver.2 以前に作成したデータに階別コンクリート強度を反映させる手順は下記です。

(操作方法)

SIRBIM[確認]-[配置データチェック]を開きます。

画面右下の建物モデル再構築を実行後に数量算出を実行してください。

配置データチェック

配置部材数 表示倍率 100 %

部材 \ 階・層		1	2	3	4	5	6	7	8
柱	配置	ZS	99						
	オフセット	ZS	99						
	回転	ZS							
	フカシ	ZS							
	鉄筋定着指定	ZS							
	鉄筋かぶり厚	ZS							
	鉄骨継手	ZS							
	端部条件	ZS							
基礎	配置								
	オフセット								
	回転								
	フカシ								
	鉄筋かぶり厚								
基礎柱	配置								
	オフセット								
	レベル								
	回転								

入力データチェック実行 エラー ワーニング

(入力データチェックを実行してください)

更新(R) 建物モデル再構築(M) 閉じる(C)

ご不明点があれば、下記の弊社製品サポートまでご連絡ください。

製品サポート <support@scinc.co.jp>

S I R B I M

<Program Ver.3.0>

リリースノート

2025 年 07 月



株式会社 ソフトウェアセンター

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-6-2 大和ビル 6F
<https://www.scinc.co.jp/>